

PF 懇談会新会長挨拶

PF 懇談会会長 三木邦夫（京都大学大学院理学研究科）

このたび村上洋一前会長から引き継いで、これからの2年間、PF 懇談会会長をお引き受けすることになりました。この場をお借りして、PF のユーザーならびにスタッフの皆さまにご挨拶させていただきます。



私はこの20年余り、タンパク質結晶学の研究のため、PF を利用させていただき、一人のユーザーとしてこの施設の恩恵に大いに浴してきました。おそらく他の分野にも同じような局面があるかと思いますが、X線を用いたタンパク質の構造研究は、1990年頃の放射光利用の汎用化と呼応して飛躍的な進歩を遂げました。そのありさまを実感できたことは、研究者として非常に幸せであったと思います。PF の運営的なことに関しては、ユーザーの立場からいくつかの委員会のメンバーを務めさせていただき、PF が置かれているあるいは求められている立場や、それらに取り組みられてこられたスタッフの方々のご努力を理解してきたつもりです。しかしながら、PF 懇談会をお世話する立場から、PF とユーザーの良好な関係を築いていくためには、これまでとは違った視点も必要であると思っています。PF 懇談会の立場については、村上前会長が2年前のこの稿で、「放射光を利用した質の高い科学的研究成果を数多く生み出す」ために、PF とPF ユーザーの絶妙な連携が必要、と極めて適切な表現をされていますが、私もまったく同じように感じております。「絶妙な連携」というのはまさに言い得て妙であると思います。双方が同じ方向に向かっていくこともあれば、時には両者の間にながしかの緊張を生むこともあるでしょう。しかし、いずれもが質の高い科学的研究成果を生むために必要な関係であるのだと思います。

村上前会長のもと、これまでの2年間にさまざまな取り組みが行われてきました。PF 懇談会の重要な活動であるユーザーグループ（UG）については、その見直し改編が行われ、メタUGが設置されました。また、施設内のグループ化も行われたこともあり、今後は、このUGとメタUGが円滑に機能するように、懇談会としてのきめの細かいサポートが必要であると考えています。とりわけ、PF-ISAC（国際諮問委員会）への対応もあり、ビームラインの統廃合を行うにあたっては、今後も関係するUGでの幅広い議論が必要であり、PF 懇談会が果たす役割が重要になると思われます。UG / メタUG とPF との間の、あるいはUG間の有効なインターフェイスであることが求められていると思います。

PF 懇談会はこれまで、昨年の運転時間削減に対する運

転時間確保の要望書やKEK ロードマップ（5カ年計画）に対する意見書を提出して、ユーザーからの率直な意見を伝えるという重要な任を担ってきました。今後も必要に応じてこのようなユーザーの声を汲み上げて、伝えていくことに努めたいと思います。これから2年の間には、現執行部の任期が来ますので、これまでと同様、次の執行部とも適切で良好な関係を築き上げることが必要です。また、次の中期計画が立案されることとなりますが、これにもユーザーとして多くの関心事が含まれることとなります。その中では、例えば、ユーザーとしてどのようにERL（エネルギー回収型ライナック）計画をサポートしていくことができるか、ということにも議論が必要になってくるかと思えます。他にも、考えていくべきことが多々あるかと思えますが、今後、幹事会メンバーとの議論を重ねて検討し、運営委員会でのご理解、ご支援を得ていきたいと考えております。今後2年間の幹事会メンバーとしては、次のような方々にご協力いただけることになりました。

平成 20, 21 年度 PF 懇談会幹事会メンバー

- 庶務幹事：足立 伸一（KEK/PF）
- 利用幹事：朝倉 清高（北大触媒セ）
手塚 泰久（弘前大院理工）
中野 智志（物材機構物質研）
五十嵐教之（KEK/PF）
- 行事幹事：栗栖 源嗣（東大院総合文化）
兵藤 一行（KEK/PF）
- 広報幹事：千田 俊哉（産総研）
- 会計幹事：谷本 育律（KEK/PF）
- 編集幹事：岡本 薫（(株)三菱化学科学技術研究セ）

PF 懇談会の重要な活動になっているPF シンポジウム、放射光利用基礎講習会は、さらに充実したものになるようにプログラムを検討できればと思います。現在、懇談会のホームページも充実したものになり、会員名簿も電子化されています。これらの内容もさらなる充実を図って、会員のための新鮮な情報が常に発信されるようにできればと思います。会員数の増加をはかるためにも「懇談会員としてのメリットを明確にする」ということは、これまででも言われ続けたことですが、何か具体的な施策を編み出したいところです。これまでのご努力下、懇談会のユーザー組織や情報発信基盤などのハードウェア的側面は組み上げられた感がありますので、そのソフトウェア的側面を充実させて会員の皆さんのメリットと感じていただくことも、これからの課題であると思っています。今後のPF 懇談会の活動に、皆さまからの一層のお力添えをお願いいたします。